言葉の耳袋（9）

短歌は高級カメラ ： 魂の自由を詠う

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA　顧問　教育アドバイザー

張江　幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。
このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】どうして短歌なの

○新聞でかぶとを折ったこどもの日
　　サムにかぶせてさむらいごっこ
　　小１　ワシントン・補

○「コモエスタ」かわす言葉にほほえみを
　　いつも陽気なコスタリセンセ　中３ サンホセ・日

海外子女教育振興財団の毎年発行している「地球に学ぶ」を、お借りして第1巻から読んでいる。 いろいろな文芸作品があるが、この短歌が妙に印象に残った。 異国に住み、 いろいろな壁を乗り越えてきたのだろう。 でも、 今はもう大丈夫だよ。 この街に溶け込んで元気に生活しているよ。 そのような作者の声が聞こえてくるからだ。

前号で「俳句はカメラ」と表題を付けた。 ところが何人かの読者から、 俳句よりも短歌が近いというご指摘があった。 12月の海外子女教育専門相談員連絡協議会で、 財団の田中強先生から、同じようなお話があって、近作の短歌集をいただいた。【北スペイン「巡礼の道」百聞一見歌】の巻頭言からの抜粋。

北スペインの「巡礼の道」を訪ねた。・・中略・・今回も、先の「エジプト百聞一見記」「ルーマニア・ブルガリア百聞一見記」に続き、旅の記録を短歌にしたためてみた。 これまでと同様、旅行中に見たまま感じたままをメモした拙き歌であるが、 北スペインの情景を幾分なりとも読み取ってもらえれば幸いに思うものです。

○天蓋に「タント・モンタ」の文字読めり
　　一つのスペイン願いし言葉

○丘陵に風車発電並びたる
　　ドンキホーテは如何に思うや

【2】いろいろなレンズのカメラ＝短歌

台北とニューヨークの日本人学校に勤務したとき。 行事や旅行があれば、 短歌か俳句を詠むことをすすめた。 子どもたちの作品は圧倒的に短歌が多かった。 三十一文字という制限だけで、誰もが参加できる。 俳句にくらべて、 説明や描写がしやすいという意見や、 5･7･5･7･7という語感やリズムが気持ちが良いという意見もあった。

古来、 人生は旅であるといわれたが、 海外にあってはなおさらこの想いを強くする。 旅に出会った瞬間の思いを写し取るのに、短歌はまさに多機能カメラである。

【3】海外子女の歌

海外子女教育振興財団では毎年「海外子女文芸作品コンクール」を行っており、たくさんの作品から入選した作品を集めて「地球に生きる」という作品集を発行している。その中からいくつか紹介しましょう。〔一部は NY 日本人学校短歌集より〕

（1）自分の心の小さな揺れをうたったもの。

○生活は英語が分かればいいのだが
　　孤独が私をたべてしまうの

○周りには知らないことが多すぎて
　　怖くて怖くて胸が苦しい

○泣きに泣きイギリスに来たはずなのに
　　また泣きに泣き日本に帰る

言葉が分からない戸惑いや悲しみを、 孤独が私を食べると表現している。 外国で生活を始めたとき。 何年ぶりかで日本に帰る不安。 だれもが体験しているので、 思わず「そうだよねー」と相槌を打ちたくなる。

（2）周りの人との交流をうたう

○僕のことスージスージと呼びながら
　　金髪ふりふりマイクがくるよ

○七夕にリサとケイトを呼んできて折り紙教えて歌を歌った

○僕が跳ぶアメリカ人の君も跳ぶ
　　トランポリンで空にはばたけ

○花びらが舞い込んでくる窓際で
　　ダンに教えた日本の話

こうなればもう大丈夫ですね。

（3）現地の自然をうたう

○トルネード木を押し倒し屋根に穴作った後で青空残す

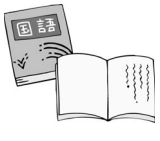
○真昼間に日陰の猫も暑そうな灼熱サウジの４７度

○大自然ドスンと象があらわれる
　　動物たちの王様みたいだ

○午後の九時空見上げれば青い空北緯五十度実感してる

あっと驚くような体験がそのまま素直に表現されている。

（4）現地での生活をうたう

○カウベルがカランコロンと歌ってる
　　私も歌うハイジの村で

○窓越しに差し出されたる小さい手
　　ごめんね私何もできない